

地域おこし協力隊新聞

第五号



こんにちは！赤井川地域おこし協力隊の戸田です。だんだんと春が近づいてきましたね！早いもので道の駅は開業から一年以上が経過しました！今回は協力隊二年目となった自分のことについて書きました！

●村で仕事をする目的ときっかけ

私が赤井川村で仕事をする一番の目的は、日本を良くすることです。なぜそんなことを考えるようになったのか考えていたところ、海外で出会った二人の日本人の言葉を思い出しました。一人はカナダで同じ語学学校に通っていた大学生の男の子。クラスでいつも人気者の彼でしたが、就職の話になると決まって「日本で働きたくない」「働いて楽しいって言う人が周りに一人もない」とこぼしていました。もう一人はニュージーランドで出会った知識豊富な二十歳くらいの女の子。同じ宿泊先のホテルで何時間もいろいろな話をしていた時、マジメな顔をして「日本で働くつもりはない。日本の未来に希望が持てない」と言っていたことが今でも印象に残っています。

私は二人の意見に共感しつつ、このままじゃ日本だめかも、と思いました。おそらくこの二人の正直な気持ちが自分自身「日本を良くしたい」と思うきっかけをくれたのだと思います。

●自分の役目

私の場合、例えば「料理の腕がスゴイ！」とか「海女さんになりたい！」など明確なスキルや目的がないため、単発的になってしまいう仕事がほとんどです。でもやらないよりはやったほうが良い事をとにかく頑張ってみる事が、今の自分の大切な役目だと思っています。

●やりたいことその一 都会の人に田舎の良さを伝えたい

そもそも私は数年前まで田舎が好きではなく、住むなんて考えたこともありませんでした。地元・湘南が本当に大好きで地元以上に良い場所なんてこの世に存在しないと思っていました。ですが一度地元を離れてみると、私は都会暮らしが合っていなかったんだと自覚しました。都会暮らしが性に合っている人ももちろ

んいます。私のように「都会暮らしが合っていないのに都会で暮らしている人」「田舎に移住するなんて考えたこともない人」は意外と多いと思います。最近思うことですが、田舎の魅力は住んでこそ分かるような気がします。

子供たちが幼い頃から近所の人と顔や名前を覚えるくらい近い距離で接していたり冬に雪かきをしていけば近所の方とほんの数分でも会話をする機会があったり。よほどでない限り他人と言葉を交わすことがない私の地元と比べ、この違いはとても大きなことです。他にも赤井川に来て嬉しかったことは「仕事は大変だけど楽しいよ！」と言ってくれる人に初めて出会えたことでした。

そんな風に言えるくらい心豊かに生活している人たちのことを、都会で暮らす人に伝えて知ってもらいたいと思っています。

●やりたいことその二 村のPR

昨年、道の駅だけ寄って帰ってしまうお客さんに、ぜひ村内を歩いてもらおうと「みやこマップ」を作成しました。どのくらいの人がこのマップで描いたコースを歩いてくれたか分かりませんが、たくさんの人に見てもらえたとは思っているので今年は「あかいがわマップ」の作成や、現在の村・村人が良く分かるような動画作りをしたいと思っています！

●やりたいことその三 道の駅に「あかいがわ」の個性を

道の駅は、お客さんを買う物をしてもらうためのスーパーのような存在ではなく「地域とともにつくる個性豊かなにぎわいの場」です。食べ物や売り物以外で村や村の人を知ってもらえるような工夫ができないかいろいろ検討中です！

●やりたいことその四 情報発信

道の駅に関する情報はもちろん、村のイベントやあまり知られていないような小さなできごととも村内外に発信できるようになりたいです。

●やりたいことその五 その他いろいろ

村の景観について考えたり、新商品を開発したり、村で生産されたものにもっと価値をつけたり、空き家を民泊施設にしたり・・・ぼんやり考えているだけで具体性はまだ何もありませんが、追々これらのことも取り組んでいけたらと思っています！